



フィグ・ヤーパン通信

第 40 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.40

発行日 2009 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

地球人よ、緊急に みずからをより善いものへ 転化する時が来た

「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー

私はすでに 1964 年 9 月に世界中のすべての政府に対して次のように書き送った。

「現代と未来の急務は、人口過剰の狂気をついに阻止することである。人類によって引き起こされた気候変動はもはや止められないが、理性と悟性によって破壊、破滅、混沌、災害を少しは抑制できる。それはたとえば自然の水郷を再生し、惑星、自然および動物相と植物相の略奪を中止することによってである。というのも、そのようにしてのみ最悪の事態をかわり回避できるからである。だがそれは、人口過剰の狂気が抜本的な法的措置によって停止されることを前提とする。人口過剰もしくは世界人口は、緊急に世界中で管理された出産停止によって抑制され緩和されなければならない。なぜならそれによってのみ人類のあらゆる種類の需要の増大およびそれに伴うさらなる破壊を最終的に取り除くことができるからである。古い予告が実現するためにすでに多くのことがなされた。それゆえこれに対して措置を講じることも必要なのである。すなわち、あらゆる種類の化石燃料エンジンおよび煙突などによる環境汚染を、その他のあらゆる形態の環境汚染、大気汚染とともに緊急に抑制しなければならない。人間のあらゆる種類の建造物、たとえば住居や工場な

どを雪崩や洪水の危険のある地域からなくすようにすることも緊急に必要である。洪水を吸収する自然の貯水区域として水郷地帯などを自然に返さなければならない。住居や工場などはもはや山地流、平地流、海岸、雪崩斜面あるいは冠水の恐れのある平地に建ててはならない。さらに小川、河川、湖、道路、住宅地域、斜面や山などで、急流が溢れ、あるいは土石流、雪崩、泥石流、山崩れが発生して損害をもたらす危険のある箇所で大至急防止策を講じなければならない。また、家屋、道路、道、鉄道を浸水や冠水、埋没や亀裂から守るために、高くて頑丈な堤防を築かなければならない。これは多くの場所が必要であろう。なぜなら予告された多くの混沌と災害は残念ながらすでに避けられないからである。しかも時間は過ぎるのが速く、ほとんど残されていない。それゆえ行動することが肝要であり、これは全地球人類の責任である。地球人は無責任に引き起こされた気候、動物相および植物相、自然、そして惑星の破壊と、人類の根絶のプロセスを阻止するために、最終的に遅すぎてもはや何もできなくなる前に行動しなければならない。

地球人よ、どこへ行くのか(Quo vadis, humanitas?)。君は暗黒の小径、すなわち二度と帰ることのない滅亡に続く小径で道に迷っている。我が身を救え、完全に向きを変えて、光の小径、創造と自然の小径、

^{あまね} 遍く存在する創造の法則性の真理の光の道、すなわち善そのものの道を進むための時間はまだあるのだから。

人間よ、君のこれまでの人生から身を転じ、創造と自然の法則および掟に戻る道を見つけよ。本当の人生の堅実な道に戻れ。しかしその道は宗教や教派によって見つけて歩むことはできない。だから君が毎日あるいは毎週日曜日に教会に行こうと役には立たない。君はそこで熱心な教会参詣人の一人として目立とうとし、聖職者の一言一句を聞き漏らすまいとする。できることなら誰からもよく見えるように会衆席の最前列、聖職者の隣りに座る。そして君が熱心に神の言葉に耳を傾け、そのためにあんなに聖職者の近くにいること、祈りを捧げるためにモスク、寺院、シナゴグ、何らかの礼拝所に通っていること、あるいは礼拝を執り行う宗教代理人の言葉を聞き漏らさないようにしていることをみなが確認する。人間よ、そのような行為は創造の真理の法則ではなく、創造と自然の摂理あるいは秩序ではなく、人生の意義でもない。君が自分自身で認識して真理の道を見つけ、真理の言葉をきわめて深く理解して、これを信頼して遵守するのでなければ、君にとって深い恥辱の肥溜めにはまっていた方がましである。君が創造と自然の法則および掟の道を進まないならば、せめてその道を進んで実際の真理を探し求めようとする者の邪魔をせずにその道を見つけさせよ。真理を探し求める者を呪ったり、弾劾したりしてはならない。なぜなら彼らが真理の道を歩み、そこに滞在していることは、自分自身の名声や緑柱石のような輝きのためではなく、創造の法則により人生の意義としてあらかじめ定められている自分の意識の進化のためである。あらゆる関係における人間の態度、すなわち同胞、人間存在、自然、動物相と植物相、世界の気候および惑星自体に対する態度もそこに根ざしている。しかし地球人よ、君がそれに反する行動を取るならば、君が気づくよりも早く裁きが下るだろう。なぜなら、きたるべき出来事の時代は迫り、これまで君が個人としても人類大衆としてもやってきたように、人口過剰の増殖や気候の破壊をもてあそぶ時間はもはや残されていないからである。君は長いあいだ、あまりに長いあいだ、ありとあらゆる害悪と虐待をほしいままにしてきたが、いよいよそ

の限度を超えた。古来言われているように、悪事はいつか破綻する。

人類および個人としての人間よ、貧乏人であれ金持であれ、小男であれ大男であれ、物乞いであれ労働者であれ、私の言葉はあらゆる地位の人間に向けられている。身を転じよ、そして創造と自然の法則および掟が定める真の人生の道を歩め。世界と君を大きな災厄が見舞い、君が人口過剰によって人類自身と全自然に、動物相と植物相、気候、大気および水域、その他一切に加えてきたすべての破壊に対する積明を求める時が間近に迫っているから。

数千年来の書にはこう書かれている。《君の隣人を君自身のように愛せ、なぜなら隣人は生命の息吹を吹き込まれた君の愛すべき兄弟姉妹だからである。》人間よ、それゆえ君の憎しみ、欲望、日々の不和、残忍な戦争やテロ行為、利己心、尊大、復讐欲、嫉妬、権力欲、そして報復欲を終わらせよ。殺人、謀殺、殺害、拷問、売春、あらゆる種類の憎しみ、欲望と所有欲、不誠実、不正義、不公正、そして君の悪癖、悪習、その他すべての変節を避けよ。君の隣人を君自身のように愛せ。君の同胞、自然、動物相と植物相、そして君の故郷であり、君の庇護である惑星を愛せ。

こうも書かれている。《転覆的な出来事が生じる時代が近づいたとき、天に現れる時代の印に留意せよ。》個人としての人間よ、この時代の印に留意して、それを理解することを学び、誤って解釈してはならない。その真理について知り、それを珍しい奇跡と見なしてはならない。というのも奇跡とは、その価値になんの意味もない概念を表す言葉にすぎないからである。それらの印をそれらが本来あるもの、すなわち強大な法則の産物と見なせ。君は人口過剰とそこから発生したすべての問題によってその法則を破り、それによって自然、動物相と植物相、気候、そして惑星自体に途方もない変化と破壊を引き起こし、困窮、殺人、犯罪、戦争、テロ、悲惨および滅亡を世界と人類にもたらしたのである。天に現れる印とは、主として人間の無分別の結果の印である。それらの印はあらゆる種類の凄まじい悪天候として開示される。なぜなら気候温暖化、気候破壊および環境破壊は予想を超えた災害となって現れ、さらに続くからである。それはすでに日常茶飯事とな

っている。だが地球人よ、君はこれらのひどい出来事の罪が自分自身にあることをまだ把握せず理解していない。ここで罪と言うのは、君が人口過剰をますます悪化させ、それによってもはや解決できない途轍もない問題を生み出しているからである。最終的に手遅れになる前に身を転じよ。なぜなら君はまだ最悪の災害を回避するためにできることがあるからだ。しかし素早く行動せよ。さもないと手遅れとなり、君の不埒な行為の破局的な結果はもはや止められなくなり、自然や生命や惑星や気候は人間の無分別の結果を、原始世界の暴力をもって人類と惑星に投げ返すだろう……。」

気候と自然の破壊のプロセスを止めるのは確かに難しいが、人口過剰を徹底した出産停止によって抑制し、それによってすべての問題が緩和されるなら、まだある程度可能である。もしそれがなされないならば、ありとあらゆる種類の問題が際限なく増大して、もはや克服できなくなる。それによって全人類と惑星の現存が危険にさらされ、おぼつかなくなる。したがって地球人類がある日、無分別と無理解と利己主義自体によって抹殺され絶滅するかも知れない。地球人よ、想像豊かに仮想された神が人類のために耳を開いて、赦しとあらゆる害悪の回避を願う君の無意味で卑屈な祈りを聞き入れることはないだろう。なぜなら神は実在しないので、およそ何か

を聞いたり、救いの手を差し伸べたりできないからだ。地球人よ、根本的に君のみが君自身の主人であり師である。というのも、君のみが神であり、君のすべての行動と作用、君のすべての思考と感情、そして君が自分で切り開くべき君の全運命に対して全面的に責任を負うのである。それゆえ、ついに真の愛と自由、真の調和と平和を生み出すのは、ひとえに君に、君自身に、君の思考と感情に、君の悟性と理性と責任に、そして君自身と全地球人類にかかっている。地球人よ、君だけがこれを成し遂げて、地球を愛と自由、調和と平和という高い価値が尊敬され、評価され、大事にされる楽園に作り変えるように要請されており、またその能力がある。というのも君の代わりにそれをできるような造物主としての神やその他の神も、聖人や天使や偶像もないからである。君だけが君の人生と、そして君が考え、君の感情と行動と行為によって呼び出すあらゆる事物の主人であり師である。したがってまた君は、まったく一人でおよそすべてのものに対して全責任を負うのである。

ビリー

2009年5月21日、18時38分

セムヤーセ・シルバー・スター・センター

ヒンターシュミットリュティ

(おわり)

Q&A 質問と回答

□読者の質問

最近、私が大豆でできたデザートを食べようとしたら、ベルナデッタ・ブランドが大豆製品は健康に良くないと言いました。もちろん私はその言葉に従うつもりで、インターネットで「大豆の危険」や「大豆のリスク」について調べました。それらの記事を読んだら、私は身の毛がよだちました（たとえば <http://www.sylt-gesund-leben.de/texten/soja.htm>）。「純粋な」大豆製品、たとえば大豆デザート、大豆ヨーグルト、豆腐、豆乳を食べたり、飲んだりしなくても、大豆は時間がたてばたつほど（表示の有無に関わりなく）ますます多くの食品、化粧品、医薬品（イソフラボン）に含まれているのです。さ

らにパン、肌の手入れクリーム、更年期障害用の薬剤、それどころか乳幼児の栄養にも含まれています。

親愛なるビリー、クウェッツァルやプターから聞いて、大豆には実際にどのような危険性があるのか知っていますか。

間違いなく多くの人に興味があることなので、ぜひともご返事ください。

マリアン・ユーリングガー（スイス）

□ビリーの回答

上の質問について、第267回会見記補遺－1998年6月30日の私的会話から一部を抜粋する。

ビリー：さて、大豆製品について尋ねたい。大豆は派手に宣伝されて、いろいろな食品のほか、香料、油、

豆腐などが作られている。私も豆腐を何種類か食べてみたが、喉を通らず、吐き気をもよおした。まるで混凝紙か発泡プラスチックのように不快に感じられたのだ。いずれにしても食べることはできなかった。だから多くの人々がこいつを食べたり、夢中になったりしていることが私には解せない。これと同じ現象は味も風味もないワニナシもしくはアボカドにも見られる。これはかつては豚の餌として遺伝子操作されて栽培されていたが、現代では人間も食品として利用しているのだ。

プター：多くの地球人の味覚神経はひどく変化したか、さらには破壊されてしまい、食品や嗜好品の本来の味を多かれ少なかれ正しく知覚できなくなっている。

ビリー：私もそう思っていた。だが、質問したのはそのことではない。私が聞いているのは、大豆製品は食品産業が言っているように、本当に健康に良いのかということだ。

プター：問題は量である。取りすぎれば健康に良くないというのは、君自身がいつも言っていることだ。基本的に大豆はタンパク質を豊富に含んでいる植物で、イソフラボンもフィトエストロゲンの形で大量に含まれている。しかしタンパク質やイソフラボンだけでなく、それ以外の大豆の成分もけっして無害というわけではない。特にイソフラボンは長期間にわたって多量に摂取すると、ホルモン代謝に非常に大きな影響を与える。それ以外のすべての大豆成分も無害ではないので、十分に注意を払うか、あるいはまったく食品として使用すべきではない。とりわけ子供用の栄養は、いかなる大豆製品も含んではならない。なぜなら、イソフラボンについて言えば、特に乳児、幼児、青少年は、大豆製品によって健康が損なわれ、健康以外の点でも重度の障害を来すからだ。どんな年齢の子供も、イソフラボンを体重1キロ当たり4分の1ミリグラム取るだけで、修復不可能な重度の健康障害を引き起こす。それも意識活動、脳、知能、思考界と感情界、心、肉体、挙動などに関してである。妊婦が大豆製品を摂取すると、胎児の肉体、四肢、神経、脳および筋肉に重度の修復不

能な障害を来し、奇形の原因ともなる。乳児や幼児に、1日に体重1キロ当たり4分の1ミリグラムを超えるイソフラボンを絶対に投与すべきではない。単純で一般に理解しやすい言葉と概念で言えば、あらゆる種類の大豆製品は多量に摂取すると、それに含まれている有毒成分のために、頑健な大人の健康さえも損なわれ、重度の障害を引き起こす。それは腫瘍もしくは癌の発生とその促進、さらには脳、意識、行動の障害、人格変貌、そして不妊に至ることもある。大豆製品によって女性と男性において特に乳癌が頻繁に引き起こされ、鬱病やパーキンソン病も発症する。遺伝的素質がある場合は、その傾向が強い。アルツハイマーや痴呆症も、イソフラボンを過度に摂取した結果である。視力、味覚神経、集中力、道徳的平衡感覚、その他のさまざまな重要な生活因子も損なわれる。

ビリー：では、大人が摂取しても良い大豆の適量はどのくらいかね。

プター：適量はイソフラボンの含量による。毒に犯されたくなければ、人間は毎日イソフラボンを体重1キロ当たり2分の1ミリグラム以上取ってはならない。

ビリー：ということは、体重70キロの人間は、イソフラボンを35ミリグラム以上含む量の大豆製品を取るべきではないということだ。だが、大豆を摂取すれば、あっというまにこの量に達してしまう。

プター：実際そのとおりだ。普通の大豆飲料2.5デシリットルにすでに約30ミリグラムのイソフラボンが含まれているからだ。

ビリー：大豆から作られた医薬品もしくはそれらのイソフラボンについてはどうかね。

プター：そのような医薬品は、体重に合わせて調整されていないか、過度に長い期間にわたって摂取するか、あるいは特にイソフラボンに対して敏感な人間の場合は、けっして勧められない。

(出典：FIGU 特別公報第49号)

— UFO 未知の世界の宇宙船 —

UFO

未知の世界の宇宙船

昼間や夜間の空に見えるすべての未確認飛行物体を、遠いかなたからやってきて地球を非公式または秘密裏に訪れる未知の世界の宇宙船と見なせないのは言うまでもない。UFO現象の多くは自然現象や地球人の営みで説明できる。それらは鳥の群れや奇妙な形をした雲、自然の光の現象や昆虫の群れから、あらゆる種類の風船や、地球の軍隊や諜報機関の秘密の飛行機械などにまで及ぶ。それにもかかわらず、明らかに地球外知的生命体に属する未確認飛行物体(UFO)は存在し、ときには目撃することもできる。この場合、今日の地球の技術をもってしてはどれほど優れた飛行装置にも真似できない、身の毛のよだつような飛行操縦が見られる。それは知的生命体とその高度な技術を用いた飛行装置もしくは宇宙船に乗って地球の大気圏内に進入して、地球を訪問していることの証拠でもある。その際に、知的生命体と地球人との間でコンタクトが行われることもときどきある。しかしまさにこの事実こそが、非常に多くの宗教的・教派的妄想と、それに根ざした空想と狂信、そしてあきれほど多くのペテンと嘘、詐欺といかさまを生み出している。その結果、自称UFOの偽造写真が数多く作られ、地球外生命体と遭遇コンタクトしたという話がまことしやかに語られるのである。これに関して際立つのは、特にこれらの人々を支配している宗教的・教派的な要素、そして名誉欲や営利欲である。こうしたことがいわゆるUFO研究に多大な害をもたらし、地球外生命体による地球の訪問という実際の出来事に関する真理を広めることに役立たないのは言うまでもない。これにはニューエイジのお祭り騒ぎも寄与しており、自称チャネラーや霊媒師などが、地球外生命体と称する者のこのうえなく怪しいメッセージを自らの口を通して語る。しかし、その言葉で真実と呼べるものはまったくないか、ごくわずかしかないのが普通である。

さて、地球人と地球外生命体とのコンタクトは昔

から繰り返し行われてきた。つまりコンタクトの歴史は太古の昔にさかのぼり、それはUFO否定論者や地球外生命体の敵が繰り返し主張して惑わしているように、近代の信仰上の傾向などではない。宇宙からの訪問者が地球を訪ねてきたという事実は、一部は昔からきわめて種々の書物、本および年代記に比較的確切に記録されている。それは世界中の多くの研究者や著者が支持し、また本に書き著している事実である。これらの本はこのテーマに関する概観を与えると同時に、それに精通するための良きツールともなっている(たとえばミヒャエル・ヘーゼマン出版『マガジン 2000』参照。これは非常に内容豊かで、価値の高い啓発的な資料を提供している)。UFOが存在し、それに乗って地球外生命体が地球を訪問しているという事実は拒絶できなくなっているにも関わらず、ありとあらゆる政府や官庁はすべてを否認し、妨害を弄して大衆を欺いている。政府、官庁、軍および諜報機関が承知している事実は否認され、どこかの妄想家か気違いの途方もない空想の産物として片付けられて、本当の真実が隠蔽されている。ここ数年幾つかの国の政府はこの件に対する態度を少し変えてはきているが、政府や官庁、軍や諜報機関に真の開放性を期待するまでには至らない。しかしながらUFOの存在の認知に一步近づいたのは事実である。これについて『我々は何を待っているのか』(エディション・タウ&タウ・タイプ、ISBN3-900977-59-3)の著者アルフレート・ブバー



日没時のセムヤーセの旧型ビームシップと偵察機
オーバー・ツェルク/ベッツヴィル/ペーレッツヴィルにて
写真No. 12 / 撮影ピリー 1975年3月3日 17時00分

ルは、彼の非常に推奨に値する著作の 69/70 ページに、次のようなタイトルで書いている。

UFO — 国際的に認知された現実

UFO問題に対する西ヨーロッパの政府の態度はアメリカ合衆国の官庁のそれに似ていたことがあったが、概してよりオープンだった。この現象に対する姿勢は、より民主的だと言うことができよう。だがNATOの成立とともにUFO目撃は強く否認されるようになり、多かれ少なかれ全面的に機密事項とされた。しかしソ連が崩壊する前にすでにUFOは秘密兵器のようなものではないという確信が増し、その結果機密レベルも緩和された。時とともにこの現象の解明を求める国内のUFO研究団体の要求、そして言うまでもなく一般市民の欲求はますます強くなっていった。

ここでは若干の国の公的機関が取っている態度に基づいて、どのようにして「未確認飛行物体」の存在の揉み消しから認知へと進んだかを簡単に紹介する。今日、最も重要な幾つかの国家では、軍または政府関係者がUFOの存在を直接確認しないまでも、間接的に認める表明を公式にしている。

西側の防衛帯に属する国家に関する限り、少なくともソ連が解体されるまではこの問題でアメリカの態度にも影響されていたが、それでも幾つかの国はかなり自主的で開放的な行動を取った。

CIS（独立国家共同体）内においてもそうした態度が見られた。ここではUFO研究はけっしておろそかにされなかつただけでなく、最後にはその存



デモンストレーション飛行するセムヤーセのビームシップ
オーバー・ゼーデレック/シュミットリュティにて
写真 No. 60 / 撮影ピリール 1975年3月8日 17時20分



高さ約 14 メートルの樫の大木の周りをデモンストレーション飛行する
セムヤーセのビームシップ
フックスビュール・ホフハルデン/バルム/ヴェツィコンにて
写真 No. 66 / 撮影ピリール 1975年7月9日 15時11分

在を認め、UFOもしくはその乗組員に対してより理性的な姿勢を示すようになった。すべての国家でセンセーショナルな事件が起きたわけではないが、時がたつに連れてすべての国で何千件、いや何万件という目撃が記録された。情報件数で見るとアメリカほど多くの件数には達していないが、コンタクトも行われた。その一方で、たとえばスイス人のエドゥアルト「ビリー」マイヤー（注:「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー）の数多くのコンタクトは、国際的にも例を見ない。

今日、読者にできるだけ数多くの目撃や遭遇について知らせようとするのは、蛇足というものだろう。これは、幸運にも一度ならずUFOを見ることができた人たちはみな笑いにされるという状況が何十年も続いた後で、UFO研究とその仲間にとって喜ばしい状態である。したがって互いに類似した多数のケースを枚挙することはもはや必要なく、今日では特別の特徴や出来事や余波に注意を向け、UFO現象全体の概念と概観を得ることが重要である。

現在疑う余地なくはっきりしているのは、UFOは存在すること。UFOは現実であること。そしてUFOに関連した現象を、近視眼的にもUFOが単なる幻覚にすぎないことの証拠として用いるすべての人は、物理学と形而上学の上級者向け講義を受けなおすべきだということである。

(次号につづく)

(出典: Photobroschüre 1)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ Semjase の表記について □

ビリーのコンタクト相手である「Semjase」についてビリーに正しい発音について確認したところ、「セミヤーゼ」ではなく、正しくは「セムヤーセ」である事がわかりました。

名前は日本語のローマ字書きのように書かれた通りに発音し、他の言語に翻訳するときも、名前の発音は変わらないとビリーは強調しています。また、もし「セムヤーゼ」と発音するのであれば「Semjaze」と書くはずだとビリーは言っています。

よって今後出版する書籍から、「Semjase」を「セムヤーセ」と記述する事になりましたので、ご報告致します。また、ホームページや既に出版済みの書籍も、順次改訂時に「セムヤーセ」に変更を行います。「フィグ・ヤーパン通信」第38号の記事「プレイヤー人の名前と概念について留意すべき重要事項：2008年11月26日の第475回コンタクト記録からの抜粋」でのプターの説明文は、以下のように変更となります。

プター：……私の娘の名前セムヤーセを例にとれば、名前の最後のEを英語ではIと発音する。セムヤーセは我々プレイヤー人が古代リラ語の方言から取った非常に古い名前です。「半女神」を意味する。しかし英語でなされているように名前の最後のEがIで発音されると、非常に邪悪な意味が生まれる。セムヤーセの「セム」は古代リラ語で「半」、「ヤーセ」は「女神」を意味するが、「ヤーシ」は「呪いの女神」を意味する。そのため英語でセムヤーセの名前の最後のEをIと発音されると、セムヤーシは「呪いの半女神」という名前になる。我々の言語や方言においても、語のたった一つの文字が誤って、つまり書かれた形とは別の様に発音されると、こうした誤った名前や概念の価値もしくは無価値が生じる。

□「UFO写真展」を開催します □

2007年に引き続き、東京での2回目の写真展を開催致します。ビリー・マイヤーによる宇宙船の写真は偶然に撮られたものではなく、どれも地球外知的生命体から許可され撮影されたもので、他に比類

の無い鮮明なものばかりです。今回はUFO写真に加えてDVDの上映など、なるべく多面的で誰にでも分かりやすい展示を考えております。会場は70年間使用され、廃校になった小学校の一面をギャラリーとして使っている、一風変わった空間での開催となります。UFOや宇宙人の事に初めて興味をもたれた方、すでにビリーの本を詳しく読まれている読者の方も、是非ともお立ち寄りください。

尚、会場では書籍やDVDの販売も致しております。

開催日：11月25日(水)～12月2日(水)(11月26日木曜日は休館日のため休廊します)

10時～18時(最終日の2日は17時まで)

会場：ランプ坂ギャラリー

(丸ノ内線四谷3丁目駅徒歩5分、新宿線曙橋駅徒歩7分)

会場住所

〒160-0004 新宿区四谷4-20 四谷ひろば内 CCAA
アートプラザ

*会場への直接の電話問い合わせは出来ませんので、ご注意願います。

□ ランチ・ミーティングのお誘い □

読者の皆様が主役になって、日本におけるフィグの活動についてざっくばらんに意見交換をすることを目的とした、ランチ・ミーティングを開催します。記念すべき第1回目は、12月12日土曜日に東京都内で行います。おいしいランチをいただきながら、これからのフィグについておしゃべりしてみませんか。

参加費は2,000円、今回は男性5名、女性5名合わせて10名の参加者を募集します。お名前と連絡先住所・電話番号、お読みになったフィグ・ヤーパンの書籍名を添えて、11月20日までに、Eメール(info@jp.figu.org)にてお申し込みください。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。参加者の皆さまには、後日開催場所のご案内を郵送にてご連絡いたします。なお、応募に当たっていただいた情報につきましては、ランチ・ミーティングのお誘い以外には使用いたしません。

出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)
価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)
価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)
- 宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト
価格 3,000 円 (税込 送料別 765 グラム)
- 心
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- 瞑想入門
価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)
- わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)
価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)
- 生命の哲学
価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声
価格 各 1,000 円 (税込)
83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 霊と肉体における生
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- ビリーの少年時代の著作
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 仕事やその他の有意義な活動をしないと人間は墮落する
価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)
- 『連想／真理の杯』(DVD:FIGU-JAPAN講演会2009ビデオ)
価格 3,000 円 (税込 送料別 94 グラム)

新刊!

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758
 加入者名：FIGU-JAPAN
 (アルファベットで記入して下さい)
 金額：送料を含めた合計金額
 払込人：あなたの住所、氏名、電話番号
 通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 40 号 (無料)

発行日 2009 年 10 月 1 日
 発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)
 住所 〒192-0916
 東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305
 電話 042(635)3741
 FAX 042(637)1524
 URL <http://jp.figu.org/>
 E-mail info@jp.figu.org
 郵便振替 00160-4-655758
 加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2009 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.